

9、資格審査委員報告

江田 義 治

總同盟一五名、

海員組合一五名、

製鐵従業員組合一名、

海員協會 七名、

港灣従業員組合 五名、

計 五三名

10、代議員歓迎の辭

白 木 清 三

軍備インフレ景氣で儲かつた會社では軍役が賞與として二十萬も三十萬も取つてゐる、昭和八年下半年期に大川平三郎は七十三萬圓、藤原銀次郎は三十五萬の所得である然るに國民の大部分は非常に困つてゐる、資本主義の矛盾で放任してゐては駄目である、軍部もパンフレットを出して指摘してゐるではないか、一部の者が不勞所得をして多數の國民は塗炭の苦しみをしてゐては國防の安全は期し得られない、思想悪化の種は彼等資本家が播いて

ゐる、然も確實なる労働組合を助長せず本縣知事さへ本會館落成式に來られて之れが指導助長を説かれた、吾々組合相互間に於て益々親睦提携を密接にして確實なる組合主義の精神を發揮せよ。

11、同答辭

海員組合 西 本 一 泰

非常時の美名を労働者の立場より鋭く批判せよ。跛行的軍需景氣は永續しない。國際的非常時の解消と共に吾等労働者は如何に慘な生活に叩き込まれるかを思つた時、今日より其の闘争準備をせなければならぬ。金融財閥は非常時解消と共にフアンション形態を採つて來ることは明白である、其の限り労働者農民はがっかりと手を握つて反抗の嵐を巻き起さねばならぬ。

12、

一般報告（事業報告と共に） 伊藤 卯 四 郎